

ソムリエのほめ言葉

今回は「ほめる」という言葉に焦点を当てたいと思います。「ほめる」と言えば、「すごいね!」と声をかけたり、頭をなでたりというように声掛けやスキンシップを連想するかと思います。一方でほめられた方も、もっと認められたいと思ったり、更に成長しようと意識を変えたりと、「ほめる」ことの効用が高いことは読者の方々もご存じだと思います。

ほめ方にもいろいろあり、行動の後すぐにほめたり、内容について具体的にほめたりと様々ありますが、ほめる言葉に工夫をされていますでしょうか。毎回「すごいね」のワンパターンでは効果は徐々に下がってしまいます。

ソムリエがワインを表現する言葉はとても多く、一説には700種類もあるといえます。例えば、「乾いた干し草のような」や「焦げたトーストのような」など。これらをワインの味・香り・その他によって使い分けられているそうです。

ちなみに、私たちが子供たちをほめるとき、いくつぐらいのほめ言葉があるか考えました。「がんばったね」「よくできたね」「ていねいに書けたね」……。とても700には及びません。言葉は心のプレゼントです。道徳性を育むことにも似ています。ソムリエに負けないようにほめ言葉の語彙を増やし、子供たちの心の種に栄養を与えていきたいと思います。

(文責:道徳部 久慈利幸)

6年生の道徳科の時間

今月は6年生です。この日の授業では、主人公の正人が自転車を歩道に止めようとしたときの気持ちをふり返し、きまりを守ることについて考えました。

主題名:きまりと社会 内容項目:「規則の尊重」

教材名:「放置自転車」

あらすじ:スイミングスクールに急ぐため、自転車を駅前の歩道に止めようとした正人は、自転車を整理しているおじさんを見て思い止まります。後日、自転車で遮られた点字ブロックで立ち往生している目の不自由な女性のために自転車を移動させた母の言葉から、自分の行動を振り返ります。

きまりを守ることで実現できる社会について議論を広げられる教材です。

教師の問い

自転車を歩道ではなく駐輪場に停めることにしたときの正人は、どのように考えていたのでしょうか。

子供たちの考え

- ・もし歩道に置いていたら、自分も危険な思いをさせる側になっていたかもしれない。
- ・自分も歩道に自転車を止めようとしていたので、放置している人の非難もできない。
- ・困る人がいるから、次からはしてはいけない。

授業の後半では、授業のねらいである「きまりを守ること」について、改めて子供たちの考えを聞き、振り返りをしました。

教師の問い

一人一人がきまりを守ると、どういうことにつながると思いませんか。

子供たちの考え

- ・困っている人が減ります。
- ・安心して暮らせます。
- ・迷惑がかからなく、安全になります。

自分の行動を振り返った正人の気づきについて友達と話し合い、一人一人がきまりを守ることで実現できる社会についての考えを広げていました。

